

病害虫情報(第2号)5月予報

令和8年4月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 5月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ウメ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、春キャベツ、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 5月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 11

- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和8年4月27日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 5月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ばか苗病	—	○	【塗沫処理(30ml/乾燥種籾1kg)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
いもち病	—	○	(予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
イネシנגアレ センチュウ	—	○	【種子浸漬(24時間浸漬)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等 ◆ イネシングアレセンチュウ対策としてはスミチオンを使用する。 ◆ もみ枯細菌病を防除対象とする場合は、テクリードCを選択する。 ◆ 種子消毒で使用した薬剤の廃液は適切に処理する。
苗立枯病	—	○	(予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予) ダユニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱 等
イネミズゾウムシ	—	○	【育苗箱施薬:散布】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)~移植当日,1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)~移植当日,1回] 50g/箱 エバーゴルフオルテ箱粒剤 [は種時(覆土前)~移植当日,1回] 50g/箱 等
ヒメビウンカ	並	○	◆ <u>イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する号外を令和8年3月26日に発表している。</u> ◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、エバーゴルフオルテを使用する。 ◆ 紋枯病、白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、エバーゴルフオルテを使用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	—	○	(予) フロンサイドSC [30日,1回] 黒点病:2,000倍 灰色かび病、そうか病:2,000~2,500倍
黒点病	—	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 黒点病、そうか病:400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍
そうか病	並	○	(予・治) ストロビードライフロアブル [14日,3回] 2,000~3,000倍 等 ◆ 灰色かび病は満開~落弁期に防除する。 ◆ そうか病発生園では、フロンサイドを選択する。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン[-,-] 200倍 (予) ICボルドー66D [発病前~発病初期,-] 25~200倍 + アビオン-E [-,-] 500~2,000倍 (予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍 等 ◆ 温州みかんにも発生する。多発園では、落花期に防除する。 ◆ イデクリーンとICボルドー66Dは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なる。
ミカンナガタマムシ	—	△	◆ 被害の確認される園では、成虫発生源となるため、被害の激しい樹を伐採し、園外で適切に処分を行う。 ◆ 成虫発生後の防除について、令和7年4月16日発表の「病害虫情報号外第3号」を参照する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ナシ】 生育:並(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000~4,000倍 (予・治) ユニックス顆粒水和剤47 [21日,3回] 2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 1,500倍 等
アブラムシ類	—	○	ハチハチフロアブル [30日,1回] 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [14日,2回] 5,000倍 等
ニセナシサビダニ	—	○	ハチハチフロアブル [30日,1回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,3回] 2,000~3,000倍 等 ◆ ニセナシサビダニが原因とみられる、新梢のモザイク症状が増えているので注意する。
カメムシ類	並	△	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍~4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カキ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
落葉病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [45日,2回] 落葉病:400~800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [45日,2回] 落葉病:400~800倍、うどんこ病:400倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予) デランフロアブル [90日,5回] 2,000倍
うどんこ病	—	○	等
カキクダ アザミウマ	—	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 ◆ 5月上旬までに防除する。
カキノ ヘタムシガ	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 等
コナカイガラムシ類	—	○	◆ 5月下旬~6月上旬に防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ウメ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	—	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000~3,000倍 (予・治) パレード15フロアブル [前日,2回] 2,000~3,000倍 等
カイガラムシ類	—	○	アプロードエースフロアブル [7日,2回] 1,000倍 ☞ アプロードエース は混合剤。総使用回数に注意する。 等
カメムシ類	並	△	テルスターフロアブル [前日,2回] 3,000倍 スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:7.5～15g/10a/日												
葉かび病	—	○	(予・治) ダイアメリットDF [前日,3回] 1,500倍 ☞ ダイアメリットDFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍 等												
			❖ 発病部と枯葉を取り除き、施設外に持ち出し適切に処理する。												
うどんこ病	—	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 15g/10a/日 (予・治) ダイアメリットDF [前日,3回] 1,500倍 ☞ ダイアメリットDFは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] 500倍 等												
			❖ 近年、うどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。												
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000～3,000倍												
コナジラミ類			ファインセーブフロアブル [前日,3回] タバココナジラミ類、アザミウマ類:1,000～2,000倍												
タバココナジラミ	やや多	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -]												
オンシツコナジラミ	並		アブラムシ類、コナジラミ類:300倍												
アザミウマ類	—	○	ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 等												
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			❖ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。												
			❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。												
			❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。												
			❖ 施設内外の雑草を除去し、収穫終了後は施設を密閉し、蒸し込みで死滅させる。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチの巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

病虫害情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	やや多	○	(予) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] 1,000倍 等 ◆ 風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。									
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] 1,000～2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パルミノ [前日,3回] 2,000倍 等									
アブラムシ類	やや多	○	アファームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ:1,500倍 ☞ アファームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍 コテツフロアブル[前日,3回] ミナミキイロアザミウマ:2,000倍 ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 パルミノ [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											
コナジラミ類	—	○										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや少	○	◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 施設内外の雑草を除去し、収穫終了後は施設を密閉し、蒸し込みで死滅させる。									

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
疫病	—	○	(予) Zボルドー [発病前～発病初期, —] 400～600倍 (予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 (予) ランマンフロアブル [前日, 4回] 1,000～2,000倍 等 ◆ 降雨により土壌中の病原菌が土粒とともにね上がって感染するので、株元にマルチを敷く。										
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時: 粒剤施用又は灌注】 プリロソソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時, 1回: 株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回: 灌注] 原液25mLを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時: 粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時, 1回: 植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類: 1g/株 【定植後: 散布】 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類: 1,000～2,000倍、コナジラミ類: 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 等 ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期から定植後の害虫防除を徹底する。										
コナジラミ類	—	○											
アザミウマ類	—	○											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td rowspan="2">アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 土のはね返りを防ぐためマルチを敷く。 ◆ 草勢の衰えは発生を助長させるので、適切な草勢管理に努める。									
うどんこ病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等 ◆ 窒素肥料の多用は発生を助長するので、適切な施肥管理を行う。									
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロソソ粒剤オメガ [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mlを2~20Lに希釈/400株 コナジラミ類、アザミウマ類 :原液25mlを10~20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5~1g/株 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:1~2g/株:植穴又は株元土壌混和 コナジラミ類:2g/株:植穴土壌混和 【定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等 ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期から定植後の害虫防除を徹底する。									
コナジラミ類	—	○										
アザミウマ類	—	○										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロツ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布]2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 原液25mLを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期～定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] アザミウマ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
コナジラミ類	—	○	
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【春キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
コナガ	並	○	アファーム乳剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500～5,000倍
アブラムシ類	やや多	○	アクタラ顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～3,000倍 ベネビアOD[前日,3回] 2,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [14日,3回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 等
黒腐菌核病	—	○	【育苗期後半～定植時:灌注】 (予・治) パレード20フロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 100倍 セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L 等 ◆ 病斑上に形成される微小菌核が次作の伝染源となる。発病残渣はほ場外で処理する。
ネギアザミウマ	—	○	【育苗期後半～定植時:灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 200倍 セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 【定植時:粒剤施用】 プリロツ粒剤オメガ [前日,3回:株元散布] 6kg/10a ☞ プリロツ粒剤オメガの有効成分シアントラニリプロールは、定植時までの処理は1回以内であることに注意する。 ベストガード粒剤 [定植時,1回:植溝処理土壌混和] 6kg/10a 【生育期:散布】 モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] 2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [7日,7回] 400～600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [7日,7回] 400～600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
炭疽病	—	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:700～1,000倍、炭疽病:700倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
アザミウマ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 等
ハダニ類	—	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【カボチャ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [21日,2回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [21日,2回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ☞ プロポーズ顆粒水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	—	○	(予) イオウフロアブル [発病前～発病初期,ー] 500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000～2,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【メロン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [7日,5回] つる枯病、べと病:400～600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [7日,5回] つる枯病、べと病:400～600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:1,000倍、べと病:700～1,000倍、 うどんこ病:700倍
うどんこ病	—	○	(予) イオウフロアブル [発病前～発病初期,ー] うどんこ病:500～1,000倍 (予) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000～2,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] つる枯病、うどんこ病:2,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] アブラムシ類:8,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
コナジラミ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 等
アザミウマ類	—	○	
ハダニ類	—	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチの巣箱を農薬がかからない場所へ移動し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

病虫害情報

(令和8年度・第2号・5月) 神奈川県農業技術センター

II 5月の気象予報と病虫害発生予報の根拠

(1) 5月の気象予報(気象庁 4月21日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	20%	70%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	40%	40%	20%

*4月23日発表1か月予報による。

(2) 5月の病虫害発生予報の根拠

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	ヒメトビウンカ	少	並	1) 越冬世代虫の密度は平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
カンキツ	そうか病	—	並	1) 昨年10月の巡回調査では、葉での発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病(中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、越冬病斑の発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除区での発生は平年よりやや少なく、無防除区での発生は平年より少ない(—)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
カキ	落葉病	—	並	1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	並	1) 越冬調査では、落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は平年よりやや多く(+)、カンキツ樹冠内のツヤアオカメムシ成虫の越冬数は平年より少ない(—)。 2) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原と南足柄は平年並(±)、県予察ほ(根府川)では平年よりやや多い(+) 3) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、伊勢原、山北、県予察ほ(上吉沢)で平年並(±)、県予察ほ(根府川)で平年よりやや多い(+) 4) 予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺数は、山北と県予察ほ(上吉沢)で平年並(±)、伊勢原と県予察ほ(根府川)で平年よりやや多い(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	もち病	少	並	1) 昨年9月の巡回調査では、発病は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハマキムシ類	少	やや多	1) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノミドリヒメコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ツマグロアオカスミカメ	少	並	1) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より少ない(－)。 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和8年度・第2号・5月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
野菜類全般 (三浦半島地区除く)	アブラムシ類	－	やや多	1) 巡回調査では、春キャベツ(横浜・藤沢地区)での発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、黄色水盤への有翅アブラムシの飛来数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
春キャベツ (横浜・藤沢地区)	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップ(横浜)への誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、フェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+):多発要因 (－):少発要因

▼三浦半島地区野菜▼

野菜類全般	アブラムシ類	－	やや多	1) 巡回調査では、春キャベツ(三浦半島地区)で発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)では、黄色水盤への有翅アブラムシの飛来数は、平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
-------	--------	---	-----	--

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+):多発要因 (－):少発要因